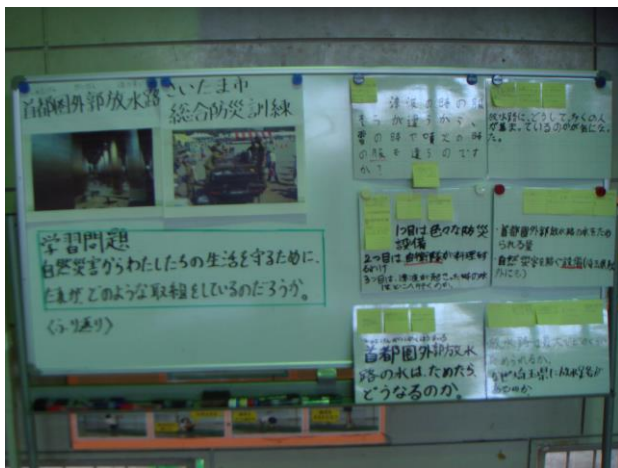


小学校社会 ～寄居町立寄居小学校～

ア 授業・研究協議の様子



イ 参加者感想

- 学習問題を立てる上で、どのようにして課題意識を持たせるかという点について考えさせられました。より考えを深めさせて、話し合いを通じて思考を広げていくためには、資料の有効活用が肝となると再認識しました。今後の教材研究に活かしていきたいと思います。
- 学習問題を立てるまでの過程が、児童にとって身近なところから段々と日本全体へと広がっていく流れとなっており、とてもわかりやすく参考になりました。また細かいところまで授業規律の徹底がなされていることで、スムーズな授業展開につながっていたと思います。
- 教師と児童の言葉のキャッチボールがしっかり行われていました。やりとりの中での大久保先生の「どうしてかな?」「どう思う?」「なんで?」などの言葉が、子供たちのより深い学びにつながっているのだと思いました。自分たちの学校の訓練の写真を提示することにより、児童の関心を引くなどの工夫は、私も今後の参考にしていきたいと思いました。
- 新学習指導要領で変わっていく単元であり、このように提案していただけてとても勉強になりました。児童もよく自分の考えを書いており、日頃の取組が感じられました。
- 多くの資料を提示することで、児童に関心を持たせる事ができている授業だと思いました。児童がよく反応し、活動していました。普段の授業では教科書を見ながら確認して終わってしまう事も多いので、本時の展開のように児童の関心を高めつつ、調べさせたりまとめさせたりしたいと思いました。
- 学習問題づくりの時間は、教師主導で進めることが多く、子供の意見の集め方や話し合いの進め方に悩んでいました。子供の疑問・関心をいかに集め、自分ごととして考えさせるかという課題について、多くの先生方と協議し、自分の考えを深めることができました。

第5学年1組 社会科学学習指導案

平成30年2月20日(火) 第5校時
 在籍児童数24名 男子13名 女子11名
 指導者 教諭 大久保 尚郁

1 小単元名 「自然災害を防ぐ」

2 小単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、社会科の学習が好きで、大変意欲的に取り組んでいる。授業でも、本時の課題に対する結論を、教科書や資料集を利用して自主的に調べ、答えを導こうと熱心に取り組んでいる児童が多い。「これからの食料生産とわたしたち」や「これからの工業生産とわたしたち」など大単元のまとめとなる小単元では、今までに学習した様々な資料から、我が国が抱える課題と解決策についてグループで話し合い、比較したりまとめたりする活動を通して、学習課題の答えを導き出すことができていた。

また、埼玉県学力・学習状況調査の結果を見ると、「埼玉県や今住んでいる市町村の歴史や自然に関心をもっていますか」という質問について、「持っている」「どちらかといえば持っている」と答えた児童の割合が75%と埼玉県の割合を上回っていた。これは、4年生の時に身近な歴史や自然を題材として取り上げ、児童に体験させたり、資料を提供して調べたり考えたりする活動を充実させたことによる成果と捉えることができる。社会科を通じて育てたい児童の姿といえる。また、分析支援プログラムで学力との関連をみると、歴史や自然に関心の高い児童ほど学力の高い傾向が見られており、社会科の時間を充実させ、児童の歴史や自然への関心を高めていくことは、学力向上においても重要であると捉える。

(2) 教材観

本小単元は、学習指導要領(平成29年告示)第5学年の目標と内容に基づいて設定されたものである。

学習指導要領の「内容」との関連
(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(7) 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。
(4) 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(7) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然 災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。

この内容は、主として「地理的環境と人々の生活」及び「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分される内容として、我が国の国土の自然環境と国民生活との関連に関する内容を学習することで身に付ける事項を示している。そして、本小単元では、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害など、我が国で発生している主な自然災害について取り上げ、自然災害が、国土の自然環境などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために、国や県などが様々な防災対策や事業を進めていることを捉えさせることとしている。

本小単元の学習を行うにあたり、本学級の児童に自然災害について、以下のレディネス調査を実施した。

本小単元に関わるレディネス調査(2017年12月7日実施) ※24名
問1 最近日本で起こった自然災害について知っていることを教えてください。(無回答3名) ※複数回答可
・地震(熊本地震、東日本大震災など) 19名 ・台風(18号、21号など) 13名 ・大雪2名 ・集中豪雨(北九州) 2名 ・噴火(御嶽山) 2名 ・津波(東日本大震災) 1名 ・雪崩1名
問2 防災施設について知っていることを教えてください。(無回答15名) ※複数回答可
・避難場所(学校・公園・公共施設など) 6名 ・消防署2名 ・県内の防災センター1名
問3 寄居町の防災対策について知っていることを教えてください。(無回答17名) ※複数回答可
・避難場所(学校、町の体育館など) 3名 ・防災無線2名 ・川の堤防1名 ・消火栓1名
問4 自然災害から身を守るために家族で取り組んでいる事があったら教えてください。(無回答6名) ※複数回答可
・避難場所を確認している8名 ・防災グッズ(非常食など)を備える7名 ・庭に物を置かないようにする2名 ・災害が起きそうな場所を確認する2名 ・家具の固定をする1名
問5 自然災害に対して、身を守るためにあなたができることは何だと思えますか。(無回答3名) ※複数回答可
・避難場所を覚える8名 ・災害が起きた際の避難行動を練習する5名 ・災害の情報を集める5名 ・避難経路を考える4名 ・避難に必要な道具を準備する3名 ・家具の固定をする2名 ・家の周りをきれいに片付ける2名 ・危険な物の確認をする1名

レディネス調査の結果より、児童は日本国内で発生している自然災害についての知識は、ある程度備わっていると考えられる。また、災害に対して、自分や家族がどんな対策をしなければいけないのかといった防災意識も比較的高いものであった。しかし、国や県の防災対策や事業については、無回答数が過半数を超えているなど理解が不十分であり、このことから、自分ができることだけでなく、視野を国や県に広げ、自然災害に備えた様々な防災対策や事業について理解できるよう指導していくことが必要であることがわかった。

そこで本小単元では、まず、日本で発生する自然災害について、いつ、どのような場所で多く発生し、どのような被害をもたらしたか等、国土の自然環境等との関連性に着目して捉えさせる。日本全体を概観した後、「山間部」「沿岸部」「都市部」と異なる自然環境に分けて考えさせることで、児童がより自然環境と自然災害との関連性に着目できるように工夫した。それぞれの場所で発生する自然災害については、その対策として、どのような防災施設があるのか、どのような事業が行われているのかといったことを、具体的な事例を使って調べさせることで、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために、国や県が様々な対策や事業を進めていることを理解させたい。そして、国や県の防災対策や事業に対し、自分たちはどのような形で協力することができるのか考えさせることで、児童一人一人の防災意識を高められるよう指導していきたい。

(3) 指導観

本小単元は、自然条件と関連付けて我が国(日本国内)における自然災害の状況を捉えさせるとともに、自然災害から国土を保全し、国民生活を守るために、国や県が様々な防災対策や事業をすすめていることを理解させる単元である。

「つかむ過程」では、まず、様々な自然災害が日本の各地で発生していることに気付かせる。その後、自然災害について学習した内容をふまえて、自分達の生活を守るために、誰がどのような取組をしているのかグループ学習を取り入れ、児童に考えさせる。児童から出された考えや意見をクラス全体で練り上げる時間をとり、単元を貫く学習問題をつくって課題解決学習に取り組みせたい。

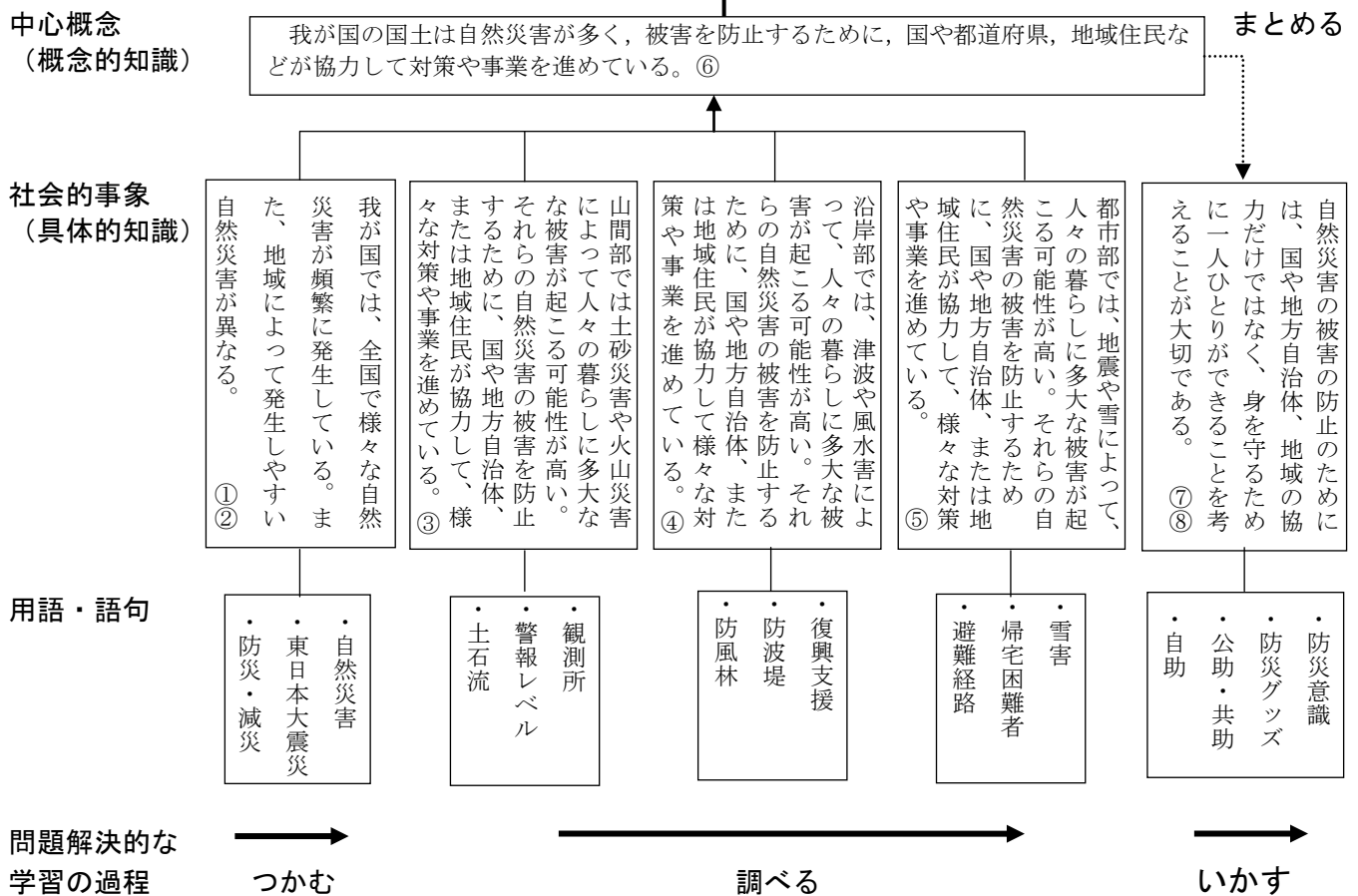
「調べる過程」では、多くの写真や資料から情報を読み取り、社会的な見方や考え方を通して、その情報について、児童にじっくり考えさせる等、児童の主体的・対話的な学びを取り入れたい。その際、**教科横断的な視点**で、理科などの他教科で学習した知識も関連付けて調べ学習ができるよう留意していきたい。

「まとめる過程」では、児童に既習事項を想起させたのち、「自分達が住む地域の防災対策(公助・共助)」について具体的な事例を基に考えさせる。児童から出された考えをクラス全体で共有し、比較したり、まとめたりすることをおして学習問題の答えを導き出したい。そして、児童一人一人に普段から防災に関する情報に関心をもたせるなど、防災意識を高めることが大切であることに気が付かせたい。

「生かす過程」では、「家族の生活を守るための」防災カードと改め、「防災訓練を行う」「災害に備えた準備をする」「避難先などの情報を集める」など大きく3つの防災対策に着目させ、これらのどの防災対策が一番大切なのか、自分が重要視したい対策内容に焦点を当てるようにする。

(4) 知識の構造図 (自然災害を防ぐ)

学習指導要領の「内容」との関連
 (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。



3 埼玉県学力・学習状況調査との関わり

本年度の埼玉県学力・学習状況調査小4国語では、「授業で課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを発表すること」という質問に対し、「よくあった、ときどきあった」と答えた児童の割合は、95.9%と埼玉県を上回る結果を得られた。分析支援プログラムで学力の伸びとの相関を見ると、みんなで意見を出し合い、課題を解決する取組は、児童の学力を伸ばすことがわかった。これは、国語だけでなく、算数でも同様の伸びが見られている。

本校では、平成27年・28年度にかけて、寄居町教育委員会、並びに、埼玉県算数教育研究会の委嘱を受け、研究主題を「学び合いを通してわかる喜びを知り、主体的に学習に取り組む児童の育成」として、算数研究を中心に取り組んできており、その成果であると考えられる。本校では、主題にある学び合いを充実させるため、まずは自分の考えを相手に伝えられるよう、相手に伝わりやすい説明文の書き方の指導や多様な見方ができるための算数的活動を計画的に実践してきた。そして、社会科の授業でも、児童が多様な考えを引き出せるよう、写真資料や統計資料の読み取り方を指導したり、自分の意見を発表する際に、根拠だけでなく、具体例(例示)まで考えたことを文章にするよう指導するなど、言語活動の充実に力を入れてきた。

以上の結果から、社会科でも大切にしている問題解決的な学習が児童の学力を伸ばすと考えられることから、本単元の学習でも、みんなで考えを出し合い、単元を貫く学習問題を作り上げることに力を入れ、問題解決的な学習に取り組ませていきたい。

4 「主体的・対話的で深い学び」の視点について

(1) 「主体的な学び」について

レディネス調査の結果より、児童は自然災害に対する一定の知識や理解はあるものと考えられる。そこで、「つかむ過程」では児童の既知の知識を用いて授業を進める。自然災害に対する課題について見出し、児童が考える課題から「学習問題」を設定し、課題解決に向けた「見通し」を持たせていく。また、授業の終末に学習内容を「振り返る」時間を必ず確保するようにし、特に、先生や友達の見解を聞いて新しく分かったことや考えたことなどを中心に振り返りをさせることで、多角的な見方ができるようにさせていく。

(2) 「対話的な学び」について

「調べる過程」においては、異なる意見の「共通点」や「差異点」を整理する活動ができるよう、日本の地理的特色を大きく山間部・沿岸部・平野部に分け、地域ごとの自然災害について調べさせる。3つの地域の防災・減災対策を学習した上で、共通点や差異点について話し合いをさせる。また、「まとめる過程」において、3つの地域の防災・減災対策を基に、自分たちの住む地域のためにどのような対策をすべき考える「最適解」について、学級全体で話し合いを行うようにする。その際に、他者の意見の問題点を指摘したり改善点を提案したりするだけでなく、誰もが納得できる「合意点」や「妥協点」を見つけるために意見を整理・調整できるようにしていく。

(3) 「深い学び」という視点

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、「社会的な見方・考え方」を働かせて、自分自身の次の「課題を見付ける」ことで児童は深い学びに向かうことができると考えられる。そこで、本小単元では、単元を貫く学習問題について、既習事項をもとに、意見を出し合い、結論を導き出したあとで、児童に、国や県の取組に対し、自分はどのように協力することができるか、自然災害を防ぐためにどんな活動ができるかを考えさせることで、防災意識を高め、実践的な態度や判断力を養うことができるようにしたい。

5 小単元の目標と評価規準

(1) 小単元の目標

我が国における自然災害やその防止の取組の様子に関心をもって意欲的に調べる。そして、我が国の国土では自然災害が起りやすく、国や都道府県などが様々な対策を進めていること。国民一人ひとりが協力したり、防災意識を高めたりすることが大切であることを理解し、防災のための自分たちの取組について考えようとする。さらに、我が国における自然災害やその防止の取組の様子から学習問題を見出し、地図や各種の資料を活用して必要な情報を集め、読み取ったことを文章や作品にまとめる。その際、自然災害の防止と国民生活や自分自身とのかわりについて思考・判断したことを適切に表現する。

(2) 評価規準

	社会的現象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用技能	社会的現象についての知識・理解
単元の評価規準	①我が国の自然災害やその防止の取組の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。 ②自然災害の防止のために国民一人ひとりや自分自身に協力できることを考え、取組もうとしている。	①我が国の自然災害やその防止の取組の様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ②自然災害の防止を国民生活や自分自身と関連付けて思考・判断し、国や都道府県などの取組や、国民一人ひとりの協力、防災意識の向上などが重要であることを表現している。	①我が国の自然災害やその防止の取組の様子について、各種資料を活用したり調査したりして必要な情報を集めている。 ②我が国は自然災害が起りやすいことや、その被害を防止するために国や都道府県などが様々な対策や事業を進めていることを読み取ってまとめている。	①我が国は自然災害が多く起りやすく、国や県が被害を防止するための対策や事業を進めていることや、自然災害の被害の防止には国民一人ひとりの協力や防災意識の向上が必要であることを理解している。

6 本小単元の指導計画と評価計画（8時間扱い）

過程	○学習活動 ・ 学習内容 ※網掛けが本時の学習 ※学習活動は、「主体的・対話的な深い学び」の視点を基に計画している。	学習活動に即した評価規準（評価方法） 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：観察・資料活用技能 知：知識・理解
つかむ	①我が国で近年起こった自然災害を調べて白地図にまとめ、発表し合う。（主体的な学び） ・自然災害には、地震、津波、台風、竜巻、洪水、噴火等様々な種類がある。 ・毎年、何かしらの自然災害が起きている。 ・地域によって起きている自然災害の種類が異なる。 我が国では、全国で様々な自然災害が頻繁に発生している。また、地域ごとに起りやすい自然災害が異なっている。①	関 我が国の自然災害やその防止の取組の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。 (発言・ノート)
	②自然災害について調べたことをもとに、学習問題を見だし、予想を立て、学習計画を立案する。（主体的な学び）（対話的な学び） ・様々な自然災害によって、多くの被害が起きている。 ・自然災害の被害を防ぐために様々な対策が行われている。 ・国や県などの公共団体が防災の取り組みをしている。 学習問題 自然災害からわたしたちの生活を守るために、だれが、どのような取組をしているのだろうか。	思 我が国の自然災害やその防止の取組の様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 (発言・ノート)

調べる	<p>③山間部（神奈川県箱根町周辺）における主な自然災害の被害を防ぐための国や都道府県，市町村の対策や事業を調べ，わかったことを発表する。 （対話的な学び）</p> <ul style="list-style-type: none"> 温泉地学研究所での火山観測をもとに，気象庁が警報情報の発信をしている。 火山防災マップの作成や町の防災訓練の実施している。 箱根町の防災計画に基づいた自主防災組織を結成している。 観光客にも避難場所や経路が分かるよう，町内にマップや施設情報を設置している。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">山間部では，土砂災害や火山災害などの自然災害が発生しやすい。そのため，国や県，地域住民が被害を防ぐ取り組みをしている。例えば，火山の観測結果による警報情報の発信や火山防災マップを利用した防災訓練が行われている。③</p>	<p>技 我が国の自然災害やその防止の取り組みの様子について，各種資料を活用したり調査したりして必要な情報を集めている。〈ワークシート〉</p> <p>知 我が国は自然災害が多く起こりやすく，国や県が被害を防止するための対策や事業を進めていることや，自然災害の被害の防止には国民一人ひとりの協力や防災意識の向上が必要であることを理解している。〈ワークシート〉</p>
	<p>④沿岸部（千葉県旭市周辺）における主な自然災害の被害を防ぐための国や都道府県，市町村の対策や事業を調べ，わかったことを発表する。 （対話的な学び）</p> <ul style="list-style-type: none"> 堤防周辺に広葉樹の植林を旭市で実施し，津波や強風の減災対策をしている。 気象情報や災害情報などの防災メールを地域住民に発信するためのシステムの設備をしている。 津波からの避難用標高マップやハザードマップを作成している。 津波に備えて，旭市全体で津波を想定した避難訓練をしている。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">沿岸部では，津波災害や風水害などの自然災害が発生しやすい。そのため，国や県，地域住民が被害を防ぐ取り組みをしている。例えば，堤防周辺の植樹による津波対策や避難用標高マップを利用した避難訓練が行われている。④</p>	<p>技 我が国の自然災害やその防止の取り組みの様子について，各種資料を活用したり調査したりして必要な情報を集めている。〈ワークシート〉</p> <p>知 我が国は自然災害が多く起こりやすく，国や県が被害を防止するための対策や事業を進めていることや，自然災害の被害の防止には国民一人ひとりの協力や防災意識の向上が必要であることを理解している。〈ワークシート〉</p>
	<p>⑤都市部（東京都23区）における主な自然災害の被害を防ぐための国や都道府県，市町村の対策や事業を調べ，わかったことを発表する。 （対話的な学び）</p> <ul style="list-style-type: none"> 内閣府の帰宅困難者対策のガイドラインをもとに，帰宅支援ステーションが設置したり，設備を整えたりするための条例が策定されている。 帰宅困難者のための一時滞在施設を掲載した防災マップを作成しており，国営の防災公園が各所にある。 商業施設や交通施設などと協力して，災害時に備えた防災訓練や，帰宅困難者の受け入れ体制の準備をしている。 	<p>技 我が国の自然災害やその防止の取り組みの様子について，各種資料を活用したり調査したりして必要な情報を集めている。〈ワークシート〉</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとに消防団があり，地域住民が災害の際に，救助活動を行うなど，地域の防災力を高めている。 大規模な災害に備えて，神奈川県，埼玉県，千葉県など，他の県とも協力体制を整備している。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">都市部では，地震災害や雪害などの自然災害が起きると帰宅困難者といった大きな被害が発生することが予想される。そのため，国や県，地域住民が被害を防ぐ取り組みをしている。例えば，帰宅困難者の為の施設の充実や消防団の活動といった地域の防災力を高めている。⑤</p>	<p>知 我が国は自然災害が多く起こりやすく，国や県が被害を防止するための対策や事業を進めていることや，自然災害の被害の防止には国民一人ひとりの協力や防災意識の向上が必要であることを理解している。〈発言・ノート〉</p>

<p>まとめる</p>	<p>⑥これまでの学習をもとに、自分たちが住む町の自然災害の被害を防止するためにできることを考え、カードに表現する。 (対話的な学び) (深い学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に対する防災施設を設備する。 ・地域の人たちと連携した防災訓練を行う。 ・防災無線など情報を素早く伝える。 <p>学習問題に対する結論 日本では、様々な地域で異なる自然災害が起こっている。そのため、被害を防止するために、地域の特色に応じながら、国や都道府県、地域住民などが協力して対策や事業を進めている。</p>	<p>思 自然災害の防止を国民生活や自分自身と関連付けて思考・判断し、国や都道府県などの取組や、国民一人ひとりの協力、防災意識の向上などが重要であることを表現している。〈発言・ノート〉</p> <p>技 我が国は自然災害が起こりやすいこと、その被害を防止するために国や都道府県などが様々な対策や事業を進めていることを読み取ってまとめている。〈発言・ノート〉</p>
<p>いかす</p>	<p>⑦⑧これまでの学習を振り返り、家族のために自分達がしていきたい防災対策について考え、話し合う。 (主体的な学び) (対話的な学び) (深い学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きた際の、避難経路を歩いて確認する。 ・災害に備えて、防災グッズの準備と点検をする。 ・ハザードマップなどを利用して、安全な避難場所や、危険地域を把握する。 <p>自然災害の被害の防止のためには、国や都道府県、市町村、地域の協力だけではなく、身を守るために一人ひとりができることを考えることが大切である。 78</p>	<p>関 自然災害の防止のために国民一人ひとりや自分自身に協力できることを考え、取り組もうとしている。 (発言・作品カード)</p> <p>技 我が国の自然災害やその防止の取り組みの様子について、各種資料を活用したり調査したりして必要な情報を集めている。〈発言・作品カード〉</p>

7 本時の学習指導 (第2時間 / 8時間)

(1) 本時の目標

我が国の自然災害やその防止の取組の様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
(社会的な思考・判断・表現)

(2) 展開



学習活動	学習内容	評価と指導の工夫 指導上の留意点(・) 評価(□) 努力を要する児童への支援(→) 主体的・対話的な深い学びの視点(☆)	資料・用具
<p>1 本時の課題をつかむ。</p>	<p>◇地域ごとの防災・減災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄居小学校の避難訓練の様子 ・静岡県の小学校の避難訓練の様子 ・南海トラフ地震の被害想定 <p>◇本時の課題の確認</p> <p>学習のめあて 自然災害への防災対策を考え、学習問題をつくらう。</p>	<p>☆自分たちの避難訓練と、静岡県(沿岸部)の避難訓練を比較することで、地域による防災・減災対策の相違点を着目しやすくする。(主体的な学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震の被害想定から、「自分たちだけが被害を防ぐための活動をすればよいのか」といった問いを投げかけ、自助努力以外の防災・減災対策に関心を持つようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の写真 ・ハソコ ・電子黒板
<p>2 課題に対する自分の考えを持つ。 【見通し】</p>	<p>◇自然災害に対する対策の考案(児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防やダムを設置など災害に備えた「設備」がある。 ・自然災害に備えて、様々な人達が防災「訓練」をしている。 ・気象情報や地震情報など、自然災害の「情報」を集めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な対策が思いつかない児童には、理科で学習した風水害に対する対策を想起できるよう資料を提示する。 <p>☆児童が発表した意見の中で、共通点や差異点に着目して、意見をまとめさせることで、具体的知識から概念的知識を獲得する。(対話的な学び)</p>	
<p>3 自然災害に対する防災・減災対策を知る。</p>	<p>◇自然災害に対する埼玉県内の防災・減災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏外郭放水路(春日部市) ・総合防災訓練(さいたま市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県(公助)の視点や市町村内の住民(共助)の視点など、様々な立場の人々が防災や減災に取り組んでいることを理解するための資料を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災設備や防災訓練の写真資料


<p>4 これから調べたいことを考え、学習問題を作成する。</p>	<p>◇調べたいことの記述（付箋紙） ◇グループごとに話し合い ◇学習問題の作成（児童の反応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の県では、どのような防災・減災対策をしているのか。 ・他の自然災害に対する防災・減災対策はどんなことをしているのか。 ・どんな人たちが防災・減災対策をしているのか。 ・地域によって防災・減災対策が違うのか。 	<p>☆共通する意見があるか着目させながら、グループ内で調べたいことを話し合い、全体での学習問題となる視点を絞るようにする。（対話的な学び）</p> <p>思 我が国の自然災害やその防止の取組の様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現している。〈発言・ノート〉 →学習問題を設定するための手がかりとして、防災対策に対して分からないことや疑問に思うことを想起させるようにする。</p> <p>☆児童が感じている疑問点や関心事項をもとに、本小単元の学習問題を作成する。（主体的な学び）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・付箋紙
<p>学習問題 自然災害からわたしたちの生活を守るために、だれが、どのような取組をしているのだろうか。</p>			
<p>5 本時の振り返りをす。 【振り返り】</p>	<p>◇本時の学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの考えを聞いて、～があることも知りました。 ・△△さんの考えを聞いて、新しく～もあると思いました。 ・今日の話聞いて、～について、もっと知りたいと思いました。 <p>◇次時の学習内容の確認</p>	<p>☆本時の学習で自分が考えたことや、友だちの意見で参考にしたことなど、1時間の授業での思考過程が分かる振り返りをさせるようにする。（主体的な学び）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本を大きく、山が多い山間部、海に近い沿岸部、平野で人口が多い都市部に分類し、学習問題の結論について調べていくことを伝える。 	

(3) 板書計画


2/20 (火)

※地震を想定した訓練 ※津波を想定した訓練



資料、首都圏外郭放水路
※洪水のための防災設備



資料、総合防災訓練
※自衛隊も訓練に参加

〈グループごとに調べたいことをまとめたホワイトボードを掲示〉

1班	2班	3班
4班	5班	6班

(学習問題)
自然災害からわたしたちの生活を守るために、だれが、どのような取組をしているのだろうか。

自然災害への防災対策を考え、学習問題をつくろう。

(予想)

- ・堤防やダムの設置など災害に備えた「設備」がある。
- ・自然災害に備えて、様々な人達が防災『訓練』をしている。
- ・気象情報や地震情報など、自然災害の「情報」を集めている。